

小噺・落語入門サロン

■ **前座** (今日の話題・話のネタ) 促音(「っ」が付くとつまる)

落語歳時記シリーズ



弥生(4月)の落語 「金明竹」

道具屋の小僧が店番をしていると、雨宿りのために軒を借りたい人、ネズミ捕りのために猫を借りたいお隣さん、主人に目利きを手伝ってほしい同業者など、様々な人がやってくる。

そして、主人が用事で出かけている間に、取引先の加賀谷佐吉の使いの者が来て、早口で

「わては、中橋の加賀屋佐吉方から使いに参じまして、先度、仲買の弥市が取り次ぎました、道具七品のうち、祐乗・光乗・宗乗三作の三所物。ならび、備前長船の則光。四分一ごしらえ、横谷宗珉の小柄付きの脇差……柄前な、旦那さんはタガヤサンや、と言うとりましたが、埋もれ木やそうで、木ィが違ふとりましたさかい、ちゃんとお断り申し上げます。次はのんこの茶碗。黄檗山金明竹、遠州宗甫の銘がございます寸胴の花活け。織部の香合。『古池や蛙飛びこむ水の音』言います風羅坊正筆の掛物。沢庵・木庵・隠元禅師貼り混ぜの小屏風……この屏風なァ、わての旦那の檀那寺が兵庫におまして、兵庫の坊さんのえろう好みます屏風じゃによって、『表具にやって兵庫の坊主の屏風にいたします』と、こないお言づけを願いとう申します」といい立てていく。上方言葉であるうえに、業界特有の省略語などもあり、内容がわからない。後から出てきたおかみさんも二度同じ話を聞くが、やはりわからない。

主人が帰ってきた後、おかみさんが言付けを伝えるも、勘違いばかりでとんちんかんになってしまう。言付けの中にあつた“古池やかわず飛び込む水の音”というセリフを基に

おかみさん 「弥市さんが古池へ飛び込んだと言っていました」

旦那 「なに!?あいつには道具を買うための金を渡していた。道具は買ってあるのか?」

おかみさん 「いいえ、カワズ」

■ **二つ目** (小咄の稽古)

小ばなしの話し方の基本

②上下を振る 演者の左側が上手 演者の右側が下手

この後皆さまの「小ばなし」披露

■ **大喜利**

今回も **謎かけ** で、お題は「すみれ」「タケノコ」

次回は2026年5月11日(月)

次回のなぞかけのお題は「柏餅」「お茶」